

NPO 法人 新エネルギーを すすめる宝塚の会

No.17

2016年6月10日発行
理事長：中川慶子
〒665-0875
宝塚市中筋山手 3-2-10
(TEL/FAX0797-88-1381)
<http://rept.or.jp>

バイオマスエネルギーシンポジウム

バイオマスエネルギーで『資源とお金』を地域で回す

日時：**7月16日**（土）13：00～16：00（開場12：30）

場所：丹波市立青垣住民センター・別館大集会室（丹波市青垣町佐治114）

プログラム

第1部 講演 「地域におけるバイオマスエネルギーとは？」

菊池 貞雄さん（北海道バイオマスリサーチ株式会社代表取締役）
「地域資源と経済をまわすということ」

澤上 篤人さん（さわかみ投資株式会社取締役会長）

第2部 パネルディスカッション

「これからは地域！エネルギー資源とお金を活かす」

近年、一次産業の衰退は深刻な問題であり、特に酪農家は激減しています。

酪農を支える方法のひとつとして、譲り受けた中古太陽光パネルを自家消費用に乳業会社の屋根に取り付け、これまでより安い電力料金設定の実現と、環境配慮による牛乳のブランドカアップの試みを丹波ですでに始めています。（ニュースNo.16 p.3ご参照ください）

今回、もう一歩進めて、安心して酪農が続けられるように、廃棄物（家畜の糞尿・食品残渣など）を発電や熱源エネルギーとして有効活用するバイオマスエネルギーについて、多角的な視野から検討するシンポジウムを計画しました。

第1部では、すでに北海道で多くのバイオガス発電所を立ち上げてこられた菊池さんや、事業を興し継続していくために重要な資金に通暁する澤上さんのお話を聞き、第2部ではおふたりに、一般社団法人みんなの低温殺菌牛乳協会理事長・丹波乳業株式会社社長・REPTが加わり、それぞれがどのように力を出し、協力し合えるかをディスカッションします。遠方ですが、ご参加ください！

参加費：無料

お申込：新エネルギーをすすめる宝塚の会 WEB サイトで受付 (<http://rept.or.jp/>)

当日参加
も
歓迎です！

実施団体：バイオマスエネルギーシンポジウム実行委員会

主催団体：NPO 法人新エネルギーをすすめる宝塚の会

賛同協力団体：非営利型株式会社宝塚すみれ発電、一般社団法人みんなの低温殺菌牛乳協会、丹波乳業、近藤栄一商店 他

この学習会は平成28年度独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を一部受けて開催します

電力の自由化ってホントはどうなっているの？

～市民の選択が再生可能エネルギー利用の後押しに～

5月15日、第5回通常総会に続いて公開講演会を開きました。準備段階で、講師の高橋洋先生に依頼内容とともに「タイトルはこれでいいでしょうか？」と問い合わせると、「私ならもう少し固めにする人が多いですが」と言いつつも承諾してくださいました。たしかに市民感覚満載のタイトルですが、嬉しいことに、タイトルにより添ったお話を展開してくださいました。

① 電力システム改革の概要

2013年から2015年にかけて電気事業法が3度変えられて、電力改革の基礎が出来た。電源が集中型から分散型へ・市場環境が国内の独占型からグローバルな競争型へ・送電ネットワークが地域別で閉鎖的なものから広域的で開放的なものへ・産業構造が垂直一貫型から水平分業型へと変わった。新規参入が増え、消費者の役割は小さく受動的で均一だったものから大きく能動的で多様なものへと変わることになる。早くから自由化の進んでいる国々では今、再エネが大量に導入されている。＜私たちは今他国より困難な立場に置かれているので、いっそう努力しなければ……。＞



② 電力小売り事業の仕組み

先生は小売り事業をサービス中心と発電中心を縦軸に、既存企業と新規企業を横軸にとって、電力会社の特性を四分割表にされた。発電中心会社のグリーン系にはみやまスマートエネルギー、ENERGY GREEN、生活クラブ、ミツウロコグリーンエネルギー＜ちなみに我が家は4/22からここに切り替えています＞、日本製紙グループが入っている。

電力の小売り自由化によって、消費者は小売り会社を自由に選べるようになり、料金メニューや関連サービスが多彩になり、変更しなくなればそのままでもいい。料金は下がるとは限らず、消費者は自分の消費行動に合ったメニューを選ぶ努力を要求される。小売り会社が倒産しても停電は起きない仕組みになっており、手続きは新契約する小売り会社に申し込むだけでいい。

デメリットもあり、多くの小売り事業者＜6/7 現在登録小売り電気事業者は312社＞があるので選択に手間取る、情報弱者や離島等に格差が生じる可能性があり、悪徳事業者が出る恐れもある。競争が起きない場合は事実上の独占となり、料金が高騰する可能性が否定できない。

③ 小売り自由化と再生可能エネルギー

先生はイギリス、ドイツ、アメリカの例を挙げられ、次に日本の状況を説明された。再エネの電気を欲しいと言っても、系統電力は均質であくまでもバーチャルなもの。自分にフィットした会社に料金を支払うことになるので、電源構成が重要。しかし政府方針としては、表示は推奨されるが義務ではない。ドイツでは消費者保護の観点から義務化されている。また、固定価格買取制度（FIT）の電力は「グリーン」や「クリーン」と宣伝することが禁じられている。

2、3挙げられた例の内、近畿の私たちに関係が深いのは生活クラブ生協の取り組みだ。生活クラブ生協は組合員が自然エネルギー電気の共同購入をはじめている。＜寄付金付きメニューを選択すると、毎月の電気料金の5%分を「生活クラブ自然エネルギー基金」に寄付することになります。＞

エネルギー政策の展望として、小売り全面自由化によって価格中心の競争が行われているが、旧電力

の優位は揺らいでいない。<6/2の朝日新聞によれば、東電・関電管内では2%以上だが、全国ではまだ1.7%>現在再エネ特措法改正案が出ており、再エネ導入は抑制方向に動いている。原子力は運転延長に、石炭火力は増設に。世界の投資はすでに石炭から撤退し、アメリカでさえ禁止されているのに、日本では増加している。

最後に先生は市民へのメッセージとして、電力に関心を持ち、だれがどのように発電しているかの情報収集をして、選択権を有効に行使し、自然エネルギーのプロシューマー（生産者・消費者）になってほしいと呼びかけられました。

<「宝塚エネルギー2050ビジョン」では2050年には100%の市民が再生可能エネルギーによる電気・熱のプロシューマーになることをめざしています。市民の一人一人がこの目標を胸に日ごろの生活を変えていく必要があるでしょう。

会場から情報提供サービスについての質問がありました。日本でも「新電力比較.com」（環境・エコで選ぶを含む）、「エネチェンジ」（再生可能エネルギー比率を含む）、「価格.com」（価格のみ）、「エネルギー情報局」（電源情報ナシ）、再生可能エネルギーを選ぶための「パワーシフト」「グリーンピースの#iSwitch」などがあります。> （なかがわ）

会場より

当日参加者から寄せられた質問・感想を簡単にまとめました。（参加者80人中35人回答）

電力自由化をより明確に理解するための「集合住宅での電力選択は可能か」「お薦めの新電力は」「スマートメーターとは」など具体的な質問から、「電源が明示されないと、本当の意味での自由化とは言えないのでは」「固定価格買取制度の今後は」「総括原価方式はどうなるのか」「発送電分離、送電線の国営化が必要では」という制度そのものに関する質問、「日本における再生可能エネルギーの普及の遅れの理由は」「再生可能エネルギー利用のデメリットはないのか」「再生可能エネルギーの環境負荷は」など、再生可能エネルギーを推進していく上で、看過してはならない点への言及など、多彩な質問に参加者の熱意を感じました。

感想は「とてもよく理解できた。ありがとうございます」という感謝と、「自由化に伴って、消費者の責任を痛感した」「エネルギー政策を展望する場合、未来に対する責任がかかせない」「価格のみで選択するのは早計」など真摯にエネルギー問題に取り組む姿勢が感じられるものが多く、「安全な電気を使いたいという消費者の要望に対して、電源構成の公表を義務化すべき」との意見もみな共感されるでしょう。再生可能エネルギー発電を優先して使う原則を設けている諸外国の推進政策と比べて、現在、再生可能エネルギーが抑制される方向にあることなど、お粗末な限りの日本のエネルギー政策に対して、市民がよく考えていかねばとの決意も示されていました。

中に「くすみれ発電所」の電力を購入したいから、手続きをPRしてほしい」という要望がありました。が、（株）すみれ発電は電気の小売りはしておりません。宝塚すみれ発電所第1号～第4号はFITの適用で電力会社に売電しているだけです。ご期待いただいたのに残念です。

宝塚市の後援を得て市の広報誌で情報提供ができ、それを見て来られた初めての参加者がかなりいらっしゃいました。参加者の多くは宝塚の方ですが、近隣市や遠方から来られた方にも感謝いたします。もう少し若い方々の参加があれば、といういつもの振り返りですが……。将来のエネルギーを選ぶ若い人々の関心喚起が課題です。 （たなか）

総会のご報告と御礼

第5回総会の開催（5月15日）にあたり、ご出席くださいましたみなさま、ありがとうございました。また委任状提出や出席のご連絡にも感謝いたします。

当日は、正会員数115名のところ出席69名（うち委任状40）と定足数を満たし、滞りなく事業報告、活動計算書報告、新年度計画、新役員選任などが可決され、質疑応答も活発に行われました。みなさまのご協力に厚く御礼申し上げます。

今年度から地球環境基金の助成を受けて若手プロジェクトリーダーを常任職員として迎え、NPO法人としての活動を持続可能なものとするようメンバー一同張り切っております。

組織の基盤強化のためには正会員の増加が何よりも重要、ご友人・知人にお声掛けいただけたらありがたき幸せです。今後とも今まで同様に応援をよろしくお願いいたします。

ワンクリック募金 gooddo (<http://gooddo.jp/gd/group/rept>) もどうぞよろしく！（なかがわ）

地球環境基金事業計画

昨年度に引き続き“独立行政法人環境再生保全機構”より、助成を受けることになりました。

昨年度は入門助成ということで、手探りでやっておりましたが、本年度は一般助成3年計画の1年目として、現在スタッフが頭を絞って将来につなげる企画を練っています。

申請しているのは、①小学生向け環境エネルギープログラム ②再エネかれっじ（連続講座）と講演会 ③エネカフェや再生可能エネルギー相談窓口など、と大きく括って3つの項目です。

- ① 子ども向け企画で、主として小学校へ環境出前授業に行きます。昨年同様“エコプロフィット宝塚”メンバーとともに、教材づくりと小学校への働きかけを始めています。育成会（学童保育）の夏休みプログラムとしてもお呼びいただきたいと考えています。
- ② 若者～大人が対象で、再生可能エネルギーをいろいろな角度から考える連続講座を計画中です。宝塚市内の大学とも連携して、学生さんたちの参加を期待しています。また、広く一般に向けたこれまでのような講演会・学習会もちろん実施します。
- ③ 市内各所で開かれるイベントなどに参加し、来場者に再生可能エネルギーに関心を持っていただくきっかけ作りをしたり、実際に再生可能エネルギーを利活用したいとお考えの方々の疑問にお答えする相談窓口など、関心喚起や具体的な手助けで再生可能エネルギーの理解と普及を目指すものです。

古手のスタッフと若手プロジェクトリーダーが協力して、3つの企画を同時進行的にやっておりますが、ご隠居でもおかしくない年令のメンバーは、「あっちゃ～間違えた!」「前に言ったことと、違うんでねえの?」ということがしばしばです。お若い方のご参加をお願いします。などと書くと、エイジングハラスメントを指摘されるでしょうが、これから何年も、再生可能エネルギーの普及活動と市民発電所の見守りとをしてゆかねばならない当会の事情を、会員みなさまにご理解いただきたいとお願いする次第です。どうか、おひとりおひとりが身近な知り合いに、関心をお持ちくださるようお声かけください。小学校への橋渡しなども大歓迎です。市民活動には、会員みなさまの支えが不可欠です!

〈助成のおかげで多少ですがスタッフに経費が支給できるようになりました〉 （たなか）

飯田自然エネルギー大学に参加して

今年度から若手プロジェクトリーダーとして働くことになり、再エネかれっじなどの企画を担当しています。企画担当として、内部の任務をしっかりと果たさなければならないとともに、外に飛び出して再エネ最前線の勉強もしなければと、5月28日から29日にかけて長野県飯田市で行われた「飯田自然エネルギー大学」に参加してきました。

これは太陽光発電や小水力発電、バイオマスなど、エネルギーを地産地消する地域主導型自然エネルギー事業に取り組む起業者の育成を目的に設立された長野県の人材育成事業です。

具体的な内容として、自然エネルギーに関する講義や実地研修を組み合わせた2日間のプログラムを年に10回、2年間にわたって行います。講義については研究者や実践者、行政職員、金融関係者など、自然エネルギー分野の第一線で活躍しておられる様々な方々を講師に迎え、幅広い視点から地域主導型自然エネルギー事業についての理



解を深めます。実地研修については飯田市及び周辺地域で、自然エネルギー事業に取り組む事業者や関係施設を訪問し、現場の具体例に基づいて学習を深めます。

第一回目となる今回は、京都大学大学院経済学研究科の諸富徹教授が「再生可能エネルギーによる地域再生」というテーマで講義を行い、「おひさま進歩エネルギー株式会社」の市民共同発電所にて実地研修を行いました。

講師だけでなく、参加者の中にも全国各地の自然エネルギー事業の現場で活動しておられる方々がたくさんおり、互いに自分の事業の抱える問題点を共有することができ、非常に良い刺激を受けることができました。

次回6月25日、26日の開催では、以前私たちの主催した電力自由化に関する公開講演会でお話をしてくださった都留文科大学社会科学部教授の高橋洋さんが「エネルギー問題と再生可能エネルギーの可能性」に関する講義をしてくださる予定です。（立石俊英）



宝塚すみれ発電所4号完成しました！

ソーラーシェアリング市民農園「KOYOSI 農園」としてもオープンしています。

2013年から計画し、農水省の補助事業を経て、このたび「ソーラーシェアリング市民農園」が完成しました。お日様の光を電気と農業で分かち合う、このソーラーシェアリングという新しい農業の形は、まだまだ知名度も低く実現しようとしたときにいろんな縛りが出てきます。



今回も地主さんの理解なくしては始まらない事業であり、また、行政機関においては関係する部署の皆様にお骨折りいただきました。

設備の設置が無事に終わり、4月半ばから発電開始しております。おかげさまで発電状態は良好、とても良い成績を出しています。また、この農園の隣は大原野市民農園で、多くの市民が農業を楽しみに来ています。畑に行くと時折パネルの下で涼んでいる人たちを見かけます。ここの農園には日影がなく、夏場は相当の暑さの中、農作業中に少し疲れを覚える人もいるようで、その時の「お休み処」にもなっているようです。意外なところでお役に立ててうれしいです！



KOYOSI 農園の二区画は私たちもお借りしていて、三種類のさつまいもを育てています。この植え付けの前段階から、大学生たちが農作業を担ってくれています。実は、甲子園大学のフードデザイン科の学生の研究に使ってもらうことにしたのです。

畝立ての時から彼らは若い力を発揮してくれました。マルチを張るのも初めての作業でしたが、楽しそうに作業しているのを地主さんもうれしそうに見ていました。そしていよいよ、苗の植え付け作業です。今回は「さつまいも」に限定した農園なのでほかのものを植えることはできません。

シルクスweet、パープルスweet、安納芋の三種類を植え付けました。最初の水やりはしっかりと行い、活着するまでは気を抜かないようにという地主さんの教えに従い、手分けして水やりに通いました。今は苗も大きくなり、これからの成長が楽しみなのと、少し困りものの「モグラ対策」に知恵を絞りたいと思います。甲子園大学の川合眞一郎学長自ら畑に入り、学生とともに汗を流しておられます。

収穫したさつまいもは、甲子園大学で比較検討実験などをしていただけることになっています。電気と農業、そして収穫した作物の利活用に至るまでの一連の研究ができるということで、この秋が本当に楽しみになってきました。電気も作物もどちらも大切なものであるということを現場で、大学生たちとともに勉強したいと思います。

(井上保子)



お知らせ

*守るべき未来と「環境」の今 ～地球・生物・環境・安全・社会の半歩先を語ろう～

国立環境研究所 公開シンポジウム

6/17 (金) 11:45～15:45

ロームシアター京都(地下鉄東西線「東山駅」1番出口より徒歩10分)

※ 参加費:無料 ※ 詳細、参加申し込みは国立環境研究所ホームページをご覧ください。

*地球環境市民講座2016「電力自由化を考える」

共催:CASA、自然エネルギー市民の会、全大阪消費者団体連絡会

第1回「電力自由化って何?～温暖化防止、再エネ普及につなげるために」

講師:安田 陽さん(関西大学 准教授)

報告:大阪ガスのでんき(大阪ガス株式会社)

と き:6/25(土)13:30～16:30

ところ:マイドームおおさか8階第2会議室

第2回「私たちの「選ぶチカラ」」

講師:飯田秀男さん(全大阪消費者団体連絡会 事務局長)

報告:コープでんき(大阪いずみ市民生活協同組合)

と き:7/16(土)13:30～16:30

ところ:ドーンセンター5階大会議室2

第3回「海外の事例から学ぶ電力自由化の可能性」

講師:豊田陽介さん(NPO 法人気候ネットワーク主任研究員)

報告:Loop でんき、泉佐野電力

と き:7/30(土)13:30～16:30

ところ:ドーンセンター5階大会議室2

※ 参加費:資料代として、各回共催団体の会員500円、一般1000円

※ 詳細、参加申し込みはCASAホームページをご覧ください。

*海のひみつをさぐる～今起きている変化～ & 映画『シンドバッド』上映

6/26(日)13:30～16:30 ソリオホール(定員300人)無料

講師:国立研究開発法人 海洋研究開発機構 川上創さん

主催:宝塚市地域エネルギー課 協力:大阪ガス(株)

※ 詳細、参加申し込みは宝塚市ホームページのイベント案内をご覧ください。

*バイオマスエネルギーシンポジウム(表記)

7/16(土)13:00～16:00 青垣住民センター別館大会議室(丹波市青垣町佐治)

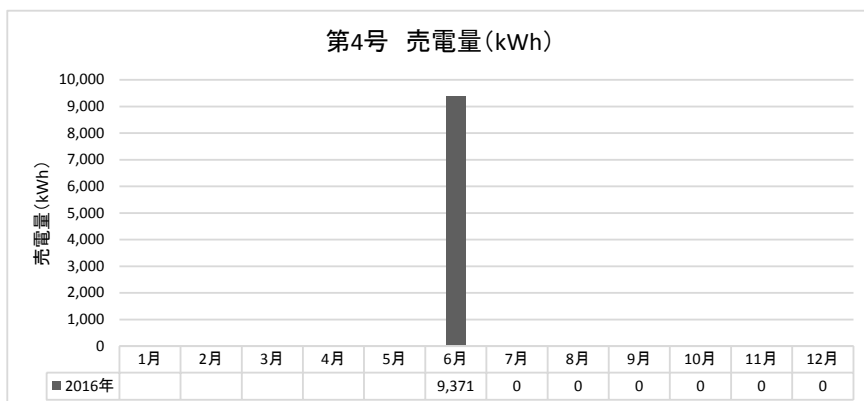
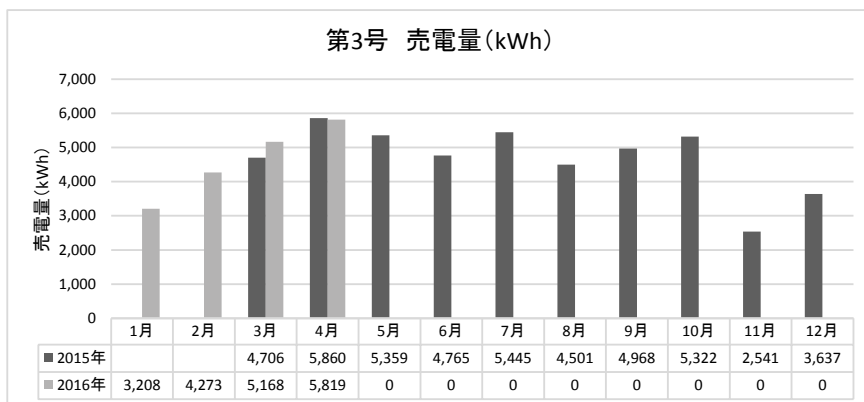
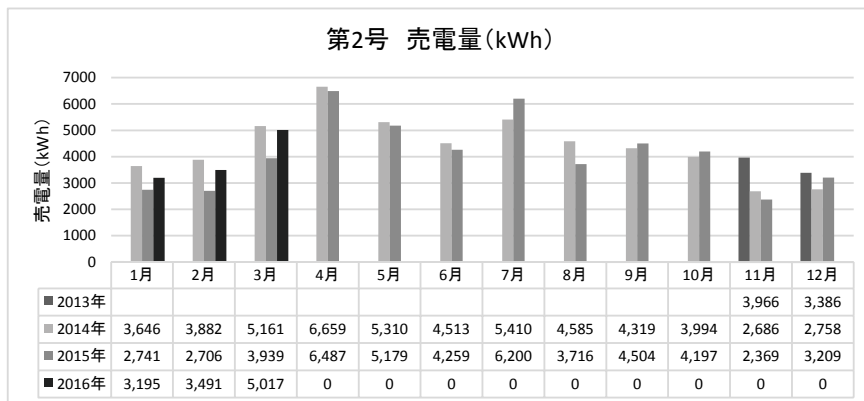
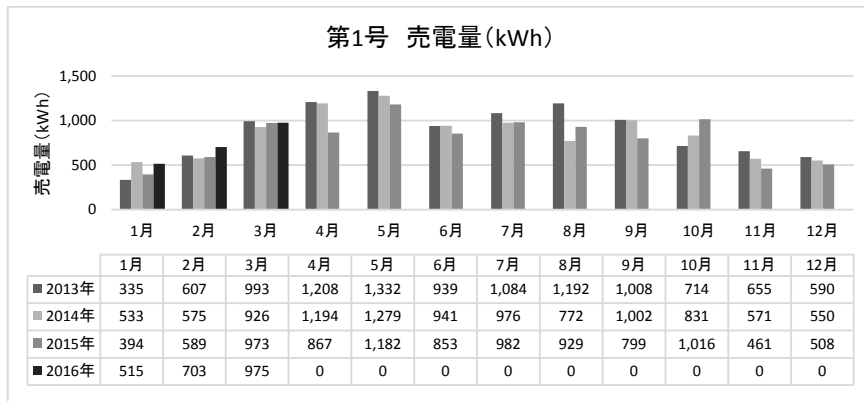
主催:NPO 法人新エネルギーをすすめる宝塚の会

モンゴルから見る日本の原子力政策は?

7/2(土)14:00～16:30 宝塚市立男女共同参画センター 1AB

主催:原発の危険性を考える宝塚の会 0797-74-6091

宝塚すみれ発電所 売電実績



このニュースは平成 28 年度独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて作成しました。